

豊臣秀長と桜井市 ゆかりの地



桜井市



秀長と長谷寺の 関わり



とよ み ひ で な が ひ で よ し や ま と こ く と う ち
豊臣秀長は、豊臣秀吉の弟。大和國（現在の奈良県）を統治し
たのち、郡山城主となり、紀伊と和泉を合わせた三カ国を領し、
兄・秀吉とともに天下統一を成し遂げました。そんな秀長は、神
仏への信仰も厚く、桜井の地とも深い繋がりががあります。

創建

どう み ょ う し ょ う に ん て ん む どう ばん ぼ っ け せ っ そ う す
道明上人が天武天皇のために「銅板法華説相図」
を初瀬山の西の丘に安置したことが長谷寺の創
建とされています。

銅板法華説相図（国宝）



開山

とく どう し ょ う に ん し ょ う む ち ょ う かん ほ ん ぞ ん じ ゅ う い ち
徳道上人が聖武天皇の勅願により、ご本尊十一
面観世音菩薩を東の丘にお祀りになり長谷寺を開
山されました。ご本尊十一面観世音菩薩は、近江
国高島から来た楠の霊木を用いて、三日間で作り
上げたといわれ、全国に広がる長谷観音の根本像
となっています。

し ゃ く じ ょ う だ い ばん じ ゃ く
右手に錫杖を持ち、平らな石（大磐石）の上に
立つ独特なお姿をしています。これは観音様の特
別なお徳を表し、人々の願いに対する慈悲の深さ
を示しています。徳道上人は西国三十三所観音霊
場の創始者であるとの伝承があり、長谷寺は主要な
札所霊場の一つとして多くの巡礼者で賑わいました。



十一面観世音菩薩（重要文化財）

「花の御寺」とも呼ばれ、四季折々の美しい風景で知られる長谷寺は、戦乱の時代、荒廃していた時期がありました。

「豊山伝通記」によると、かつて根来寺の学頭・専誉僧正は、豊臣秀吉の紀州攻めの後、和泉の国分寺に身を寄せていましたが(一説には高野山とも)豊臣秀長は、専誉僧正を招き入れて、長谷寺の再興をはかろうと考えました。

専誉僧正の入山により、長谷寺には専誉僧正を慕って、根来寺以来の弟子たちが全国から集るようになり、学山豊山の名声が高まっていきました。

その後、長谷寺は南都興福寺から離れて、真言の教学は今日の真言宗豊山派の隆盛と復興の礎を築きました。

❖ 本堂の再建と保護

秀長も参列した本堂の落慶法要では、豊臣家の家紋と秀長の名前が刻まれた吊り灯籠が奉納され、今も長谷寺の寺宝となっています。

長谷寺奥の院、歴代能化(住職)の墓所に秀長公供養塔が祀られていて宗宝蔵には、秀長の肖像画(掛け軸)や書状が大切に保管されています。

秀長と長谷寺の深い関わりは、歴史的な背景として現在に伝わっています。



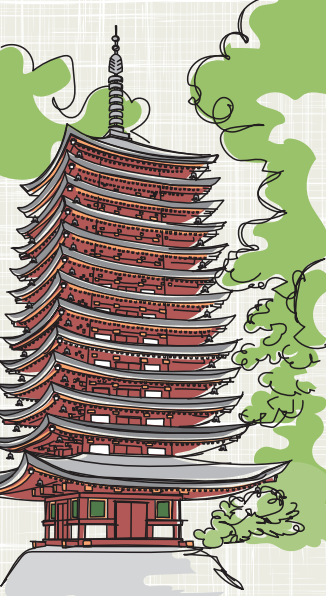
吊り灯籠



秀長公供養塔



秀長肖像画掛け軸



談山神社 秋

秀長と談山神社の関わり

藤原姓を名乗り、藤原鎌足を重要視した豊臣秀長は、支配拠点として郡山城を整備する中で、談山神社の前身である多武峰妙楽寺に祀られる大織冠尊像（現御祭神藤原鎌足公木像）を城の西北の地に遷座し、お城の守護神として崇拝しました。

しかし郡山遷座後、郡山城中で秀長の病気が異変が相次いだことで、わずか3年足らずで御尊像は多武峰へと帰山されました。

談山神社は藤原鎌足公を祀り、歴史の大きな転換点の舞台となった大化の改新の談合の地としても有名です。御祭神藤原鎌足公と中大兄皇子が、蹴鞠会で出会ったことから、毎年春と秋にけまり祭が行われます。境内には世界唯一の「木造十三重塔」があり、四季折々の美しい景色が楽しめる場所です。



多武峰縁起繪巻
『乙巳の変』



鎌足公御神像

帰山された御神像は、本殿内にお祀りされており一般公開はされていません。写真の御神像は、現在神廟拜所にて一般公開されています。

談山神社 奈良県桜井市多武峰319

桜井市 まちづくり部 観光まちづくり課

奈良県桜井市大字栗殿432-1